

音楽科学習指導案

11月13日5校時（PC室）
3学年2組（31名）
指導者 教諭・氏名 角田 健

1 単元名 「拍のながれによってリズムをかんじとろう」

2 教材について

＜学習指導要領との関連について＞

目標

A 表現

- (1) ア 範唱を聴いて歌ったり，ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
 - イ 歌詞の内容，曲想にふさわしい表現を工夫し，思いや意図をもって歌うこと。
 - ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない歌い方で歌うこと。
 - エ 互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて，声を合わせて歌うこと。
- (2) ア 範奏を聴いたり，ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。
 - イ 曲想にふさわしい表現を工夫し，思いや意図をもって演奏すること。
 - ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
 - エ 互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏すること。
- (3) イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら，音楽の仕組みを生かし，思いや意図をもって音楽をつくること。

【共通事項】

- (1) ア 音楽を形づくっている要素のうち次の（ア）及び（イ）を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取ること。
 - （ア）音色，リズム，速度，旋律，強弱，音の重なり，音階や調，拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素
 - （イ）反復，問いと答え，変化などの音楽の仕組み
- イ 音符，休符，記号や音楽にかかわる用語について，音楽活動を通して理解すること。

＜指導内容の系統性＞

2年 「はくのまとまりをかんじとろう」

・はしの上で ・トルコこうしんきょく ・たぬきのたいこ ・かっこう ・メヌエット

【目標】 A表現（1）歌唱アイウエ （2）器楽アイウエ （3）音楽づくりイ

B鑑賞（1）アイウ

【共通事項】 音色，リズム，速度，旋律，強弱，拍の流れ，フレーズ，4分の2拍子，4分の3拍子

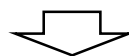


3年 「拍のながれによってリズムをかんじとろう」

・ゆかいな木きん ・手拍子でリズム ・うさぎ

【目標】 A表現（1）歌唱アイウエ （2）器楽アイウエ （3）音楽づくりイ

【共通事項】 音色，リズム，旋律，音の重なり，拍の流れ，フレーズ，反復，問いと答え，変化，4分の2拍子



4年 「拍のながれによってリズムをかんじとろう」

・いろいろな木の実 ・言葉でリズムアンサンブル ・まきばの朝 ・風のメロディー

【目標】 A表現（1）歌唱アイウエ （2）器楽アイウエ （3）音楽づくりイ

【共通事項】 音色，リズム，旋律，音の重なり，拍の流れ，フレーズ，反復，問いと答え，変化，4分の2拍子

(1) 教材観

本題材は、互いの音を聴き合いながら音を合わせて演奏することや、反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくることを通して、拍の流れやリズムに対する感覚、演奏表現に必要な基礎的な能力を養うことをねらいとしている。拍の流れを感じ取りながら、音や気持ちを合わせて演奏する活動は、高学年に向けて、息の合った美しい合唱や合奏に取り組む上で大切な基礎となるものである。

「ゆかいな木きん」は、主な旋律のほとんどが8分音符で構成されており、2拍子の軽快な拍の流れにのって歌ったり演奏したりしやすい曲である。また、それぞれのパートが似た音型の反復で構成されており、各パートのリズムの違いを感じ取りやすい。2拍子の拍の流れにのって、主な旋律の音程やリズムに気を付けて歌わせたり、歌詞の表す様子を思い浮かべながら楽しく歌わせたりしたい。また、互いの音を聴き合いながら、拍の流れにのって音を合わせて演奏をさせたい。

「手拍子でリズム」は、日本人に親しみのある「三三七拍子」のリズムをもとに、まとまりのあるリズムをつくる学習である。音楽の仕組みを生かしながらリズムづくりをさせたり、つくったリズムをつなげて一つのリズムにさせたりして、拍の流れに対する感覚を伸ばしたい。また、つなげたリズムをグループで表現させることで、友達といっしょに表現する楽しさも味わわせたい。

「うさぎ」は、江戸時代から歌われてきたわらべうたであり、伝統的な音感覚に根差した音楽である。うさぎに問い掛けるように歌ったり、それに答えるように歌ったりすることで、情景を思い浮かべながら曲想にふさわしい歌い方を工夫させたい。

リズムの特徴が異なるパートの合唱奏や、反復や変化を生かして音楽をつくる学習を通して、拍の流れやまとまりのあるリズムが生み出す面白さを感じ取らせながら、基礎的な表現の能力を伸ばしていきたい。

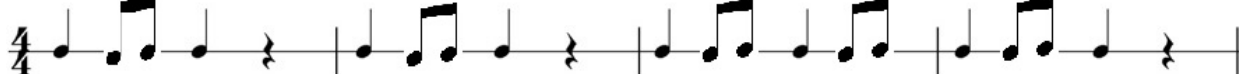
(2) 児童観

児童に対して、以下の3つのリズム譜を見て、正確に手拍子で表現できるかの調査を行った。

【事前調査】31名実施

① 

② 

③ 

	正確に手拍子で表現できた児童（31名中）
①	27名（87%）
②	26名（83%）
③	9名（29%）

①、②は四分音符を中心としたリズム譜である。ほとんどの児童が安定したリズムで手拍子で表現することができた。しかし、数名の児童が四分休符のところで一拍分休むことができなかつたり、小節と小節の間に休符を入れたりして表現していた。

③は、四分音符と四分休符のほかに、八分音符を含んだリズムである。正確に表現できた児童は9名のみで、ほとんどの児童が八分音符を四分音符と区別して表現することができなかつた。八分音符に対する感覚や理解が不十分な児童が多い。

(3) 指導観

児童の実態を受けて、本単元では、音楽に対して苦手意識をもつ児童でも、基礎的な技能を習得できるように、学習活動の方法を工夫したり、友達と関わり合いながら活動する機会を設定したりして、学習を進めていく。

第一次では、互いの音を聴き合いながら、拍の流れにのって演奏させる。歌詞に着目させ、歌詞の表す様子を考えさせ、表現に生かすことができるようにさせたい。また、各パートのリズムの違いを感じ取らせ、演奏の工夫に生かせるようにさせたい。

第二次では、反復や変化を使って、まとまりのあるリズムをつくり、表現させる。まず、まとまりのあるリズムの仕組みに気付かせる。その際、第一次で扱う「ゆかいな木さん」のリズムをとりあげ、反復や変化を使って曲が構成されていることに気付きやすくさせる。自分でリズムをつくった後は、リズムをつないでグループでリズムを表現させる。友達と関わらせながら学習に取り組ませることで、多くの児童が正確にリズムを表現できるようにさせたい。

第三次では、日本の音楽の雰囲気を感じ取らせながら、歌う学習を行う。旋律の動きと歌詞に着目させながら、柔らかな歌声で歌えるようにさせたい。また、歌詞から音楽の仕組み（問いと答え）に気付かせ、表現に生かすことができるようにさせたい。

本時の授業は、自分でまとまりのあるリズムをつくり、グループで発表し合う。しかし、リズム譜を正確に理解することができなかつたり、即興的にリズムを表現できなかつたりして、学習活動に意欲的に取り組めなかつたり、活動が停滞してしまつたりする児童がいることが予想される。そこで、プログラミングソフトを用いてリズムをつくらせることにより、試行→改善の過程を多く経験させ、自分で確認しながら活動を進めさせたり、リズムづくりに意欲的に取り組めるようにさせたりしたい。

3 研究主題との関連

<研究主題>

主体的・対話的で深い学びを支えるICTの活用
～プログラミング的思考の育成を通して～

<研究仮説>

教科や日常生活の学習場面をプログラミングすることにより、論理的に考える方法を身に付け、より効果的に問題解決することができるだろう。

→プログラミングソフトを用いて、試行を繰り返しながらリズム作りをすることにより、まとまりのあるリズムをつくることに思いや意図をもつことができるだろう。

4 単元指導計画

(1)単元の目標

- ・拍子やリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって表現することができる。
- ・反復や変化などの音楽の仕組みを生かして、まとまりのあるリズムをつくることができる。

(2)単元の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・ 拍の流れにのって歌ったり，旋律を演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。 ・ 拍の流れを感じながら，音楽の仕組みを生かして，まとまりのあるリズムをつくる学習に進んで取り組もうとしている。 ・ 日本に古くから伝わるうたの曲想にふさわしい表現を工夫し，思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。	・ リズム，旋律，拍の流れを聴き取り，曲想を感じ取って，それにふさわしい楽器の演奏の仕方を工夫している。 ・ リズムの反復や変化を聴き取り，拍の流れを感じながら4分音符と8分音符の組合せを工夫し，反復と変化を生かしたまとまりのあるリズムをつくることに思いや意図をもっている。	・ 楽器の音色に気を付けて旋律楽器を演奏している。 ・ 友達の楽器の音やほかのパートの旋律を聴きながら，自分の音を合わせて合奏している。 ・ 反復や変化を生かし，まとまりのあるリズムをつくって手拍子で演奏している。 ・ 曲想にふさわしい自然で無理のない歌い方で歌っている。

(3)指導計画

次	時	目標・学習内容	単元の評価規準との関連			学習内容に即した評価規準(評価方法)
			関	創	技	
1	1	○拍の流れにのって歌ったり，旋律を演奏したりして，進んで学習に取り組むことができる。 ・「ゆかいな木きん」を聴き，感じたことや気付いたことを発表する。 ・拍の流れにのって聴いたり，歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌ったりする。 ・主な旋律を鍵盤楽器で分担して演奏する。	○			・ 拍の流れにのって歌ったり，旋律を演奏したりして，進んで学習に取り組んでいる。(観察)
	2	○楽器の音色に気を付けて旋律楽器を演奏することができる。 ・楽器の音色に気を付けながら，鍵盤楽器1の主な旋律を演奏する。 ・リコーダー，鍵盤楽器2のパートを主な旋律と比べ，演奏する。			○	・楽器の音色に気を付けて旋律楽器を演奏することができる。(演奏聴取)
	3	○互いの音を聴き合いながら，拍の流れにのって演奏することができる。 ・担当する楽器を決め，自分のパートを練習する。 ・3つのパートを合わせて演奏する。 ・互いの音を聴き合いながら，拍の流れにのって演奏する。			○	・友達の楽器の音やほかのパートの旋律を聴きながら，自分の音を合わせて合奏している。(演奏聴取)

2	4	○まとまりのあるリズムの仕組みに気付き、リズムをつくる学習に進んで取り組むことができる。 ・三三七拍子を手拍子でうち、まとまりのあるリズムの仕組みに気付く。 ・プログラミングソフトを使って、三三七拍子のリズムを入力する。	○		・まとまりのあるリズムの仕組みに気付き、リズムをつくる学習に進んで取り組んでいる。(観察)
	5 (本時)	○プログラミングソフトを用いてリズムづくりを行うことを通して、まとまりのあるリズムを正確に表現することができる。 ・ソフトを使って4小節分のリズムをつくる。 ・グループでリズムを聴き合う。 ・本時を振り返る。	○		・反復、変化を生かしたリズムをつくることに、思いや意図をもっている。(観察・ワークシート)
	6	○グループでリズムをつなげ、自分の思いをもって表現することができる。 ・グループで練習する。 ・全体でリズムを聴き合う。		○	・反復や変化を生かし、まとまりのあるリズムをつくって手拍子で演奏している。(演奏聴取・ワークシート)
3	7	○曲想にふさわしい歌い方で歌うことができる。 ・「うさぎ」を聴き、曲想をつかむ。 ・旋律の動きと歌詞に気を付けて歌う。 ・情景を思い浮かべ、柔らかな歌声に気を付けて歌う。 ・問いの部分と答えの部分に分かれ、交互に歌う。		○	・曲想にふさわしい表現で歌っている。(演奏聴取)

5 本時の指導（5／7時間）

(1)題材名 手拍子でリズム

(2)目標

プログラミングソフトを用いてリズムづくりを行うことを通して、まとまりのあるリズムをつくることに思いや意図をもつことができる。

(3)評価規準

反復、変化を生かしたリズムをつくることに、思いや意図をもっている。(音楽表現の創意工夫)

(4)展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点 (教師の発問と課題提示)	評価の観点及び方法等
導入 (5)	1 前時の学習内容を確認する。 2 本時のめあてを確認する。 ⑥四分音符や八分音符を組み合わせて、気に入ったリズムをつくろう。	・反復、変化について確認させる。	

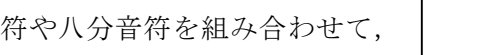
展開 (30)	【仮説の検証場面】 3 プログラミングソフトを使って、リズムをつくる。 ・ 1・2小節は同じリズム（くりかえし） ・ 1・2・4小節の最後は四分休符 ・ 四分音符・八分音符を組み合わせてリズムをつくる ・ 4小節分のリズムをつくる。 ・ PCで確認しながら、試行する。 ・ リズムが決まったらワークシートに音符のシールを貼り、気に入ったところ・工夫したところを囲む。 ・ 手拍子で練習する。	・ リズムづくりの条件を確認する。 ・ リズムを考えたら、PCに入力させ、リズムを確認させる。	評価規準 ・ 反復，変化を生かしたリズムをつくることに，思いや意図をもっている。（観察ワークシート） 規準に達しない子どもへの手立て ・ PC上で正確なリズムを確認させる。
	4 グループで自分がつくったリズムを紹介し合う。 ・ 自分がつくったリズムの気に入っているところを示し，手拍子で表現する。	・ 練習場所を分け，同じグループの友達のリズムを聴けるようにする。 ・ リズムが分からない時は，PC室に移動させ，ソフトで正確なリズムを確認させたり，教え合わせたりする。 ・ 正確に表現できなくても，最後まで聴くことを確認する。	
まとめ (10)	5 本時を振り返る。 ・ ワークシートに振り返りを書き，発表する。	・ 本時でできたこと，活動の振り返りを書かせる。 ・ 次時は自分たちがつくったリズムをつなげることを予告する。	

(5) 板書計画

1 1 / 1 3 (水)

手拍子でリズム

④ 四分音符や八分音符を組み合わせ、
気に入ったリズムをつくろう。



小さいまとまり

小さいまとまり

大きいまとまり

くりかえし

○リズムづくりの条件○

- ・ 1・2小節は同じリズム（くりかえし）
- ・ 1・2・4小節の最後は四分休符
- ・ 四分音符・八分音符を組み合わせるリズムをつくる

P C の操作画面の拡大図